

【ご参考資料】

2015 年 9 月 2 日

アストマックス投信投資顧問株式会社

『WT I 原油先物ファンド（ショート・ポジション）』の基準価額の変動について

以下の通り、9 月 1 日（火）に基準価額が大きく下落しましたのでご報告いたします。

ファンド名	2015 年 8 月 31 日(月) 基準価額	2015 年 9 月 1 日(火) 基準価額	騰落率
WT I 原油先物ファンド (ショート・ポジション)	11,476 円	10,371 円	▲9.6%

	2015 年 8 月 28 日(金) (現地、清算値)	2015 年 8 月 31 日(月) (現地、清算値)	騰落率
WT I 原油先物価格 (2015 年 10 月限・期近限月)	45.22 ドル	49.20 ドル	+8.8%

【ご参考】

ファンド名	2015 年 8 月 31 日(月) 基準価額	2015 年 9 月 1 日(火) 基準価額	騰落率
WT I 原油先物ファンド (ロング・ポジション)	3,965 円	4,314 円	+8.8%

騰落率は小数点第 2 位を四捨五入した数字です。

《弊社からのコメント》

8 月 31 日に WTI 原油先物価格が大幅に上昇し、9 月 1 日の WTI 原油先物ファンド（ショート・ポジション）の基準価額は大きく下落しました。

WTI 原油先物価格（期近物の清算値ベース、以下同じ）は 2014 年後半から下落基調が継続し、今年 3 月に 40 ドル台前半まで下落した後、5 月にはいったん 60 ドル台まで値を戻しましたが、イラン核開発協議の進展による供給増観測等を背景にその後は上値の重い展開が続きました。7 月に入り、米国内の石油掘削リグ稼働数が増加に転じたこと、中国株の変調、ギリシャのデフォルト懸念の高まり等から WTI 原油先物価格は急落し、イエレン FRB 議長の議会証言等を受けてドル高が進行したこともあって、7 月 22 日には再び 50 ドル割れまで下落しました。

当資料は情報の提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また、運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。当ファンドは、預貯金や保険契約にはあたりませんので、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で取扱う投資信託は投資者保護基金の対象でもありません。当ファンドの運用による損益は、投資者の皆様へ帰属します。当ファンドのお買付のお申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書（交付目論見書）」をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ず投資信託説明書（交付目論見書）の記載事項をご確認のうえ、投資の最終決定はご自身でご判断ください。

8 月には、中国が人民元の基準値を大幅に切り下げたことで同国の景気減速懸念が高まり、経済指標の悪化や当局の政策に対する失望感もあって同国株式市場が急落すると、世界的にリスク回避の動きが強まり、WTI 原油先物価格も下げが加速、8 月 24 日には 2009 年 2 月以来の 30 ドル台まで下落しました。しかし、25 日に中国人民銀行が政策金利と預金準備率を引き下げ、27 日に米国の第二四半期（4-6 月期）GDP 改定値が速報値から上方修正されると、リスクオフで売られていた資産が軒並み買い戻され、WTI 原油先物も前営業日比 10.3%高と 2009 年 3 月以来約 6 年半ぶりの急騰となりました。

翌 28 日も堅調な株式市場やイエメン情勢の緊迫化による地政学的リスクの高まり等を背景に同+6.3%と続伸すると、週明けの 31 日には需給の引き締まり観測から同+8.8%の 49.20 ドルと再び急伸し、3 営業日間の上昇率は 27%超に達しました。同日に発表された OPEC（石油輸出国機構）の月報では「適正かつ妥当な価格の達成のために」「他の産油国と協議する準備ができています」との姿勢が示され、EIA（米国エネルギー情報局）が同日に公表したレポートでは、米国の 6 月産油量推計値（1 日当たり）が 5 月から 10 万バレルの減少となり、上半期（1-6 月）の産油量推計値も下方修正されました。需給の緩みが解消されるとの思惑から売り方の買戻しが活発になる一方、短期チャート上ではすでに上昇トレンドが形成されているとの見方もあり、新規の買いポジションの構築も進んでいるようです。

《今後のポイント》

27 日～31 日まで 3 連騰した最大の要因は、金融市場が混乱する中で売られすぎとなっていた反動による買戻しと考えられます。31 日は需給という原油相場のファンダメンタルズに関する情報に反応しましたが、需給バランス的にはまだ供給が需要を上回る状態であると見られます。また、OPEC による減産はシェア争いに拘泥してきた姿勢と相反することから目先の実現の可能性は低いと考えられます。一方、短期チャート上ではすでに上昇トレンドが形成されているとすると、下押し圧力は弱まると考えられることから、相場の波乱材料が出なければ、24 日のザラ場安値である 37.75 ドルを底として、40 ドル台を中心としたレンジ内での取引となりそうです。

今回の金融市場の混乱は、中国人民銀行の利下げがきっかけとなって収束に向かいましたが、同国経済のハードランディング懸念が完全に払拭されたわけではありません。中国経済に対する不安が再燃した場合は、中国の需要減退懸念から 24 日の安値に接近する可能性があります。米国内の原油在庫は、ドライブシーズンが終わり、製油所は原料となる原油の購入を控えることから増加基調となる時期ですが、増加ペースが早ければさらなる需給悪化懸念につながり、ペースが緩やかであれば需給緩和に歯止めがかかったと受け止められる可能性があります。

今後とも弊社ファンドを一層ご愛顧いただきますよう、お願い申し上げます。

以 上



WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション／ショート・ポジション／マネー・ポジション)

【WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)】 追加型投信／海外／その他資産(商品先物)／特殊型(ブル・ベア型)

【WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)】 追加型投信／海外／その他資産(商品先物)／特殊型(ブル・ベア型)

【WTI原油先物ファンド(マネー・ポジション)】 追加型投信／国内／債券

当資料のお取扱いにおけるご注意

当資料は、アストマックス投信投資顧問株式会社により作成されたご参考資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書(交付目論見書)」をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認ください。当資料は、信頼できると判断される情報に基づいて作成されていますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しないし保証するものではありません。投資信託は預貯金や保険契約にはあたりませんので、預金保険・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関で取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

基準価額の動きについてのご留意事項

「WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)」は、日々の基準価額の値動きが、WTI原油先物取引価格の値動きの概ね反対となる投資成果を目指して運用を行ないます。そのため、2日以上保有した場合は、「概ね反対」とはならないことが想定されますので、ご注意ください。

「WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)」の基準価額とWTI原油先物取引価格の値動きの例

	基準日	1日目	2日目	2日間の騰落率
WTI原油先物ファンド (ショート・ポジション)	10,000円	11,000円 (+10%)	9,350円 (-15%)	-6.5%
WTI原油先物取引価格	10,000円	9,000円 (-10%)	10,350円 (+15%)	+3.5%

※WTI原油先物取引価格を10,000円としています。実際取引される価格とは異なります。

「WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)」、「WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)」は、原油先物取引を活用するため、主として以下の要因等により、運用目標が達成できない場合がありますので、ご注意ください。

- ・運用資金の増減等の対応のために行なった原油先物取引の約定価格と終値に差が生じた場合
- ・大幅な変動や急激な変動、流動性の低下などにより先物取引が成立せず、必要な取引数量のうち全部または一部が取引不成立となった場合
- ・原油先物取引の最低取引単位の影響
- ・原油先物取引のロールオーバー(期近の取引を決済し、期先の限月の取引へ乗換える)時に発生する売買委託手数料等の負担や限月間の価格差(スプレッド)による影響
- ・売買委託手数料、信託報酬、監査報酬等の負担

※上記以外にも、運用目標が達成できない場合があります。なお、市場動向等に急激な変化が生じたときまたは予想されるとき、信託財産を保全するため原油先物取引の建玉を縮小もしくは全て決済する場合があります。その場合、基準価額はWTI原油先物取引価格の値動きの影響を受けにくくなること、もしくは受けなくなることが想定されます。

換金性等が制限される場合について

商品市場および金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を中止すること、または既に受付けた購入・換金・スイッチングのお申込みを取消す場合があります。

当資料は情報の提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また、運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。当ファンドは、預貯金や保険契約にはあたりませんので、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で取扱う投資信託は投資者保護基金の対象でもありません。当ファンドの運用による損益は、投資者の皆様へ帰属します。当ファンドのお買付のお申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書(交付目論見書)」をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ず投資信託説明書(交付目論見書)の記載事項をご確認のうえ、投資の最終決定はご自身でご判断ください。



WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション／ショート・ポジション／マネー・ポジション)

【WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)】 追加型投信／海外／その他資産(商品先物)／特殊型(ブル・ベア型)

【WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)】 追加型投信／海外／その他資産(商品先物)／特殊型(ブル・ベア型)

【WTI原油先物ファンド(マネー・ポジション)】 追加型投信／国内／債券

基準価額の変動要因

当ファンドは、主に商品先物取引(「WTI原油先物ファンド(マネー・ポジション)」以外の各ファンド)およびわが国の公社債を投資対象としますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。当ファンドの運用による損益は、全て投資者の皆様へ帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。

＜主な変動要因＞

商品先物取引による運用に伴うリスク	商品先物の取引価格は、様々な要因(商品の需給関係の変化、天候、貿易動向、為替レート、金利の変動、政治的・経済的事由および政策、技術発展等)に基づき変動します(個々の品目により具体的な変動要因は異なります)。商品先物を買建てている場合、価格が下落すれば損失が発生し、売建てている場合、価格が上昇すれば損失が発生します。当ファンドの基準価額は、商品先物市場の変動の影響を受け、短期的または長期的に大きく下落し、投資元本を下回ることがあります。その他、商品先物取引が基準価額に影響を与える要因については、下記「商品先物取引による運用に伴うリスク」をご参照ください。
公社債の価格変動(価格変動リスク・信用リスク)	公社債の価格は、一般に金利が低下した場合には上昇し、金利が上昇した場合には下落します。また、公社債の価格は、発行体の信用状況によっても変動します。特に、発行体が債務不履行となった場合、またはその可能性が予想される場合には、当該公社債の価格は大きく下落します。当ファンドが組入れている公社債の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。
為替リスク	外貨建資産は、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。当ファンドが組入れている外貨建資産について、当該外貨に対して円高となった場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。当ファンドにおいては、外貨建資産の為替変動リスクを低減するため、外国為替予約取引等を用いて為替ヘッジを行ないますが、想定したほどヘッジ効果があがらない場合があります、基準価額に影響を及ぼすことがあります。
カントリー・リスク	投資対象国・地域において、政治・経済・社会情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合等には、運用の基本方針に沿った運用を行なうことが困難となることがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されているものではありません。

商品先物取引による運用に伴うリスク

上記「基準価額の変動要因」に記載した要因以外の基準価額に影響を与える要因

外貨建てで取引される場合は、為替変動の影響を受けます。

市場の流動性の低下、投機家の参入および政府の規制・介入等の様々な要因により、影響を受けることがあります。流動性の低下等により、価格が著しく不安定となる場合や、売買の際に大きく変動することがあります。

取引所が定める値幅制限等の規制により、不利な価格で取引を行なわなければならないことがあります。

価格の低い期近の先物を価格の高い期先の先物に買換える場合、または価格の高い期近の先物を価格の低い期先の先物に売換える場合、マイナスの影響を及ぼす可能性があります。

その他の留意点

■クーリング・オフについて

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

■「WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)」の基準価額の動きの留意事項について

「WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)」は、日々の基準価額の値動きが、WTI原油先物取引価格の値動きの概ね反対となる投資成果を目指して運用を行ないます。そのため、2日以上保有した場合は、「概ね反対」とはならないことが想定されますので、ご留意ください。※詳しくは、当資料のP3「基準価額の動きについてのご留意事項」をご参照ください。

■基準価額の動きの留意事項について

「WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)」、「WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)」は、原油先物取引を活用するため、主として当資料のP3「基準価額の動きについてのご留意事項」に掲げる要因等により、運用目標が達成できない場合がありますので、ご留意ください。

当資料は情報の提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また、運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。当ファンドは、預貯金や保険契約にはあたりませんので、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で取扱う投資信託は投資者保護基金の対象でもありません。当ファンドの運用による損益は、投資者の皆様へ帰属します。当ファンドのお買付のお申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書(交付目論見書)」をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ず投資信託説明書(交付目論見書)の記載事項をご確認のうえ、投資の最終決定はご自身でご判断ください。



WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション／ショート・ポジション／マネー・ポジション)

【WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)】 追加型投信／海外／その他資産(商品先物)／特殊型(ブル・ベア型)

【WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)】 追加型投信／海外／その他資産(商品先物)／特殊型(ブル・ベア型)

【WTI原油先物ファンド(マネー・ポジション)】 追加型投信／国内／債券

ファンドの費用

■お客様が直接的に負担する費用

	料率等	役務の内容
購入時手数料	申込金額に右記の手数料率を乗じて得た額とします。 申込金額： (申込受付日の翌営業日の基準価額／1万口) × 購入口数	購入時手数料は、購入時の商品および投資環境に関する説明や情報提供、事務手続き等の対価として販売会社にお支払いいただきます。
スイッチング (乗換え)手数料	上記「購入時手数料」の3分の1の金額となります。 ※「WTI原油先物ファンド(マネー・ポジション)」へのスイッチングについては、手数料をいただきません。	
信託財産留保額	ありません。	

申込手数料

お買付時の 申込金額	手数料率
5,000万円未満	3.240%
5,000万円以上	1.620%
5億円以上 10億円未満	0.648%
10億円以上	0.324%

■お客様が信託財産で間接的に負担する費用

	料率等	役務の内容
運用管理費用 (信託報酬)	【WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)】 【WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)】 純資産総額に対し、 年率2.0412%(税抜年率1.89%) とします。 【WTI原油先物ファンド(マネー・ポジション)】 純資産総額に対し、 年率0.9720%(税抜年率0.9%) を上限とします。	委託会社、販売会社、受託会社の役務の内容については以下の通りです。 委託会社：資金の運用の対価 販売会社：運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 受託会社：運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他の費用 ・手数料	① 法定開示に係る費用、公告に係る費用、信託財産の監査に係る費用、法律顧問、税務顧問に対する報酬等は、当ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年0.1%の率を上限として乗じて得た額です。これらの報酬等は、信託報酬の支払いと同一の時期に信託財産中から支払われます。 ② 商品先物や有価証券売買時の売買委託手数料、借入金の利息、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息等がお客様の保有期間中、その都度信託財産中から支払われます。これらの費用については、運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を示すことができません。	

※当ファンドの手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

お申込みメモ

購入単位	1本のファンドにつき、10万円以上1円単位(注)または10万口以上1口単位です。なお、「マネー・ポジション」の購入は、スイッチング(乗換え)による場合のみとなります。 (注) 購入時手数料および購入時手数料に対する消費税等に相当する金額を含めて、10万円以上1円単位でご購入いただけます。 ※ ただしスイッチングの場合は、1口単位です。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします(ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています)。
購入・換金申込不可日	「WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)」、「WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)」については、ニューヨークの銀行の休業日もしくはロンドンの銀行の休業日の場合は、原則として購入・換金の申込みを受付けないものとします。
申込締切時間	午後3時までとします(販売会社所定の事務手続きが完了したもの)。
換金単位	最低単位を1口単位として販売会社が定める単位とします。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	換金の申込受付日から起算して5営業日目から販売会社でお支払いします。
信託期間	平成29年6月26日までとします(平成21年7月1日当初設定)。
収益分配	原則として、年1回の決算日に、収益配分方針に基づいて分配を行いません。なお、分配金は税引後、原則として決算日から起算して5営業日目までにお支払いを開始します。分配金再投資コース(税引後の分配金が自動的に無手数料で再投資されるコースをいいます。)はありません。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

当資料は情報の提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また、運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。当ファンドは、預貯金や保険契約にはあたりませんので、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で取扱う投資信託は投資者保護基金の対象でもありません。当ファンドの運用による損益は、投資者の皆様へ帰属します。当ファンドのお買付のお申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書(交付目論見書)」をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ず投資信託説明書(交付目論見書)の記載事項をご確認のうえ、投資の最終決定はご自身でご判断ください。



WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション／ショート・ポジション／マネー・ポジション)

【WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)】 追加型投信／海外／その他資産(商品先物)／特殊型(ブル・ベア型)

【WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)】 追加型投信／海外／その他資産(商品先物)／特殊型(ブル・ベア型)

【WTI原油先物ファンド(マネー・ポジション)】 追加型投信／国内／債券

委託会社その他の関係法人

委託会社

アストマックス投信投資顧問株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第387号

商品投資顧問業者 農経(1)第21号

加入協会 一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

日本商品投資顧問業協会

受託会社

三井住友信託銀行株式会社

(再信託受託会社 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)

販売会社	登録番号	加入協会
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号	日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当資料は情報の提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また、運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。当ファンドは、預貯金や保険契約にはあたりませんので、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で取扱う投資信託は投資者保護基金の対象でもありません。当ファンドの運用による損益は、投資者の皆様に帰属します。当ファンドのお買付のお申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書(交付目論見書)」をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ず投資信託説明書(交付目論見書)の記載事項をご確認のうえ、投資の最終決定はご自身でご判断ください。